

小平市観光まちづくり振興プラン（素案）に対するパブリックコメントの実施結果について

1. 実施の概要

期 間	平成25年11月19日～平成25年12月18日
意見応募者数	11名

2. 意見等に対する対応状況

反映済み	3件
一部反映	2件
参考	6件

意見等への対応

番号	ご意見等	検討結果	対応
1	中島地域センターに、自動機（住民票等発行）を置いて、横に長い小平市のどこでも住民票が簡単に取得できることも、小平市に住みたいと思うのではないのでしょうか。	本プランは、個別の住民サービスのあり方について述べる性格のものではないため、ご意見として承ります。	参考
2	小平には、観光はいらないと思います。 農家の方も、裕福だし、サラリーマンは夜戻ってくる静かな街を求めています。 今のままでいいと思います。	本プランは、素案の26ページの「地域中心の観光まちづくり」のとおり、従来の観光ではなく、住民の住みやすさを前提とした持続可能な観光を企図したものです。	参考
3	<ul style="list-style-type: none"> ●青少年の健全育成の為、スポーツができるグラウンドや散歩、ジョギング、サイクリングロードなど自由に市民が体を動かせる場所をもっと増やしてください。 ●子供が自転車等を練習できる無料の施設を、場所、スペースを提供して下さい。 ●書類や手続きを出さなくても自由に入出入りできる大きな森林公園など、作ってください。 ●玉川上水の利用を憩いの場所としてもっと市民や一般の人に開放して下さい。 	本プランは、個別の住民サービスのあり方について述べる性格のものではないため、ご意見として承ります。	参考

<p><はじめに> 小平市観光まちづくり振興プランを考える場合、そもそもどのような「地域」にしようとしているのかです。 市民の暮らしと「観光」のことは何か具体的な機会を自覚的に設けて市民に参加を呼びかけることでもあります。</p> <p><現状と課題> 観光政策に関する現状を考える場合、われわれ日々生活暮らす地域環境であり、どこにでもある「まち」です。そこで地域観光の活性化を「地域」の実相を冷静に振り返り、改めてよりアメニティ豊かな地域にしようという着眼へのアプローチにあります。 観光まちづくりの諸施策等わが地域の観光要素のなかで、皆が「美しい」と認める暮らしの快適さを高めて進めていくことです。</p> <p><振興プラン> 小平市の観光と環境社会を観察する場合、ハード、ソフトの「資産」から、いわば「地域遺産」を意識的に探索し、皆で確認することが重要である。 「新しい公共」と呼ばれる小平市の観光施策は、これまでのまちの見方とは異なる視点を得ることができるように、「社会資源の発見」です。 観光まちづくりプラン（デザイン・システム）としての役割を果たすには、まちづくりの成果を景観として責任を持つ社会です。</p> <p>4 <具体的事項> ①小平市の自然に適合した規模地域（景域・観光）を単位とする ②小平市の自然環境に依拠した共存共栄型のシステムを進める ③小平市の文化遺産等を再発見し、世代をこえて継承、活用する ④これまでの観光プランを持続的に循環させ、推進体制を進める ⑤小平市民としての自覚と、自発的な参加を促す</p> <p><新しい観光戦略のイメージ> どんな地域にも外発的な力と内発的な課題が存在するので、両者の相互作用を前提とすることが重要です。 ①地域観光資源を有効に使い、文化・交流の価値づけを行う ②地域に観光施策の利益を還元する ※成果を観光まちづくり振興アクションプランとして表現する ③地域のニーズを戦略的に連携し、市民一人ひとりの意見を構築する ※小平市のキャッチコピーを市民から聞くべきです 〈例〉玉川上水とグリーンロードのまち 都会から一番近い（ ）のこだいら 等</p> <p><まとめ> 観光まちづくりの振興プランとは「小平市での暮らしを営むひとびとが生活環境や伝統文化や地域資源（玉川上水・グリーンロード）等の潜在的な可能性を引き出すことにより、経済的自立性を獲得するとともに地域社会に立脚した豊かな生活に追求すること」です。</p>	<p>①どのような地域を目指すのかについては、基本理念の中で記述しております。 ②現状と課題については、検討委員会などのさまざまな意見から本プランの中で整理しました。 ③「地域遺産」の探索については、「まちの魅力に気づくことが出発点」として記述しております。 ④具体的な事項については、参考といたします。 ⑤本プランの検討委員会では、ご意見の「まとめ」に書かれている意図も持ちながら素案を作成いたしました。</p>	<p>参考</p>
--	---	-----------

<p>5</p>	<p>観光まちづくり振興プランの案をつくられた皆様、大変お疲れ様でした。</p> <p>1. 小平市の上位の計画との整合性 長期総合計画、都市計画マスタープランとの整合性をはかるとあります。開発計画が、すべて優先されてしまうのが、常である。それでは意味がありません。観光資源の筆頭にあげられているものは、小平グリーンロードがあげられています。ほどよい自然・緑が残っている、直売農家などの魅力を取り上げられています。都市計画マスタープランには、これらの小平市の魅力をつぶしてしまうようなものが多く含まれています。小平市の魅力を保全して、アピールしたいのであれば、観光資源を保全する方向で、長総計、都市マスと整合を図ることが必要です。 例えば、グリーンロードのメインの玉川上水のあちこちに橋をかけてしまったら、果たして遠方から散歩に来る人は増えるでしょうか？玉川上水の沿線に住みたい、住み続けたいと思うのでしょうか？ 例えば、玉川上水をまたぐ開発計画については、地下を通す、既存の道路を拡張して少しでも犠牲を小さくする、などの配慮がないかぎり保全されません。 一度決めた計画でも、しっかり見なす小平市になっていただきたいです。 そのために、地域住民との調整がたいへんであることは容易に想像つきます。しかし、そのために行政はあるのではないのでしょうか？ このような振興プランをつくっても、観光資源が保全されないのであれば、なんの意味もなさないのではないのでしょうか？</p> <p>2. 小平市の地場産業 ブルーベリーばかりが、目につきますが、他にも素敵な果物があります。ぶどうです。小平のがんばっているブドウ農家とっても、おいしいです。</p> <p>3. おもてなしの体制、情報発信について わざわざ小平観光まちづくり連絡会をつくる必要があるのでしょうか？小平の魅力づくりに熱心なNPOや団体がいくつもありその中で熱心な市民が活躍されています。 既に人的なネットワークが出来ているのでやりやすい団体が担当するのが良いと思います。 市民団体が簡易な手続き手、掲示できる掲示板が少ないのは問題です。インターネット以外のアピール手段として、市民が活用できる掲示板がないに等しいです。そのような掲示板をつくることで、市民団体の活動を市民に知らせることができて、イベントに参加する市民が増え活性化が期待できます。</p> <p>以上</p>	<p>1について、市のまちづくりについては、小平市都市計画マスタープラン、小平市みどりの基本計画2010等の法令等により策定された基本計画に基づき、計画的な整備を行っております。 2について、ご指摘のとおり、小平市にはぶどうをはじめ、多くの農産物があります。本プランでもアクションプラン「23.地産地消の推進及び情報発信」にて、地域の特性である少量多品目の農産物のPR等を推進します。 3について、小平の魅力づくりに熱心なNPOや団体があることは承知しております。観光まちづくり連絡会は、既存のNPOや団体の横のつながりを強化するプラットフォーム的な役割があると考えています。情報発信の方法についても連絡会で検討していきます。</p>	<p>参考</p>
<p>6</p>	<p>小平グリーンロードを中心に、小平の歴史や文化、なごやかな日常をゆっくりと堪能できる散策のためのコース作り、その周知、常に新しい情報も加えて、新鮮で魅力的な情報を発信すること。 ●グリーンロードをいくつかのコースに分け、半日程度で歩いて、食事したり買い物もできるコースの提案。 例・玉川上水グリーンロード～雑木林でのミニコンサート～カフェで休憩 ●コース途中にあるお店や、農園の無人販売に立ち寄ると、小平の歴史について学べるちょっとしたフライヤー（ちらしや冊子）が手に入ったり、小さなプレゼントがあったり。 小平の最大の魅力である水と緑の回廊を大切にしながら、地元の人たちとの交流や歴史が学べる楽しさを加えた観光まちづくり。</p>	<p>散策のためのコースの提案につきましては、目標5アクションプラン「34.モデルコースやモデルエリアの設定及び情報提供」におきまして、具体的に行っていきたいと考えております。</p>	<p>反映済み</p>

7	<p>生まれも育ちも小平です。小平の魅力は、何と云っても緑の豊かさだと思います。東西を流れる玉川上水が、東京でありながら四季の豊かさを感じさせてくれます。玉川上水を歩くツアーなどもあり、観光の目玉の一つにもなっていると思います。</p> <p>子供の頃は畑も多く「田舎」という感じでしたが、だいぶ緑が少なくなってきましたので、魅力が減ってきているように思えてなりません。以前は群れで飛んでいたオナガの群れも、今はほとんど見る事がなくなってしまいましたから。</p> <p>中央公園のところに道路が通ることが決まったようですが、ここは武蔵野美術大学のアートサイトの会場になっている雑木林もあります。大事な魅力の一部ですから、何とか残して緑を生かす街づくりを観光に役立てて欲しいと思います。緑の豊かさがセールスポイントなのに、それを無くしてしまうことは本末転倒だとも思います。</p>	<p>①本プランにおいても「緑」は地域資源のひとつとして位置づけております。</p> <p>②市のまちづくりについては、小平市都市計画マスタープラン、小平市みどりの基本計画2010等の法令等により策定された基本計画に基づき、計画的な整備を行っております。</p>	参考
8	<p>玉川上水に関連する展示やイベントをする際に、玉川上水沿いにある程度の規模のギャラリーやホールがあれば、実際に上水沿いを歩くイベントと展示や講演会を組み合わせることができると残念に思っています。津田公民館は小学校とも連携して、地域の中で活発な交流のある公民館となっていますが、一定期間、展示ができるギャラリーがなく、駅から離れているので、外から人を招くイベントには最適とはいえない環境にあります。</p> <p>たとえば、国分寺からアクセスしやすい鷹の台駅そばの市民総合体育館に、玉川上水についての情報スポットを設ける、文化的イベントにも使用可能なスペースを設ける、などすれば、玉川上水に関心を持つ人が利用しやすいのではないかと思います。どうなのでしょう（現状では、体育関係と自治会等への貸し出しに限られています）。</p> <p>情報発信については、発信主体を市に限らないほうがよいのではないかと感じます。市から一方的に発信するのではなく、まちを活性化しようとする市民の発信を市民同士で共有しやすい環境の整備に意味があると思います。小金井市、日野市、国立市等には、市民掲示板が多く設置されていると聞いています。こうしたアナログなしかけでも、日常的に市内に住む人が発信しあうことで、主体的にまちを活性化しようとする人を増やし、まちへの愛着を増やすのではないのでしょうか。</p> <p>小平市のせっかくの平らさを活かして、とことんバリアフリーのまちにするということも、ぜひ考えていただきたいと思います（にじバスルートの拡充も含め）。</p> <p>愛着を持っている緑豊かな場所が次々と都市計画で分断されたり、失われたりしているのが現状です。都市計画を見直すところまで含めてまちづくりを考えるのでなければ、このような方針を作ってもあまり意味があると感じられません。小平グリーンロードを謳うなら、もっともっと大事にしていきたいと願っています。</p>	<p>①地域資源のひとつである玉川上水については、アクションプラン「29.ストーリー性をもった歴史的景観のPR」にあるとおり、PR方法についても検討していきます。ギャラリーやホールについては、既存施設の活用方法のひとつとして参考といたします。</p> <p>②情報発信については、「13.観光ポータルサイト」において、市からの一方的な発信だけではなく、双方向の情報共有可能なものを検討します。またポータルサイト運営も連絡会が行うなど、市民自ら行うことも想定しております。</p>	反映済み

<p>9</p> <p>1. 概ねわかりやすくコンパクトにまとまったプランとなっている。文章もきちんとしている。</p> <p>2. 2～3ページの「期待される効果」の4点については、それぞれの効果により結果として、「まちが活力を持つ」とか、「若い世代の流入による活力が生まれる」とか「まちが活性化する」とか、「市税の増収につながり、市民生活に還元される」とか、「まちの資産価値が高まる」とか「地価の評価が高くなる」とか、そういうことを期待しているのではないか。人のネットワークが広がり、ビジネス機会が広がり、イメージアップになり、住みたいと意識される効果の結果について、少しまとめて記述したほうがよいのではないか。行政が税金を使って作る計画なので、その必要性にもつながる。</p> <p>2. 4ページの規定の計画との関係だが、プチ田舎をイメージにするならば、「農業振興計画等」との整合を図る必要があるのではないか。</p> <p>3. 合わせて、観光の大きな担い手となる商工会や市の「商業振興計画等」との整合も必要ではないか。きちんと位置づけの表の中「既定の計画等」に「・・・」でなく記述すべき。</p> <p>4. 5ページの小平市の地勢には「武蔵野台地」と「平坦な地形」を入れた方がよい。地勢とは土地のありさま、高低差や土地そのものを表す言葉なので。</p> <p>5. 9～12ページの小平市の地域資源の中に「産業・テクノロジー」などが入ってもよいのではないか。プラン33には展示施設のみであるが、ブリヂストンタイヤ工場の見学コースは観光になる。他市ではコンビナートのライトアップが町の魅力になっている例があり、日立電子の工場も映像など面白い展示がある。</p> <p>5. 22ページの課題については、課題なのだからもう少しストレートに3つの表記を（1）おもてなしの体制不足（2）情報発信不足（3）地域資源の活用不足と足りていないことが課題であることをタイトルに記してはどうか。</p> <p>6. 27ページの「推進体制づくり」の（仮称）小平市観光まちづくり連絡会がわかりにくい。結局、どのような組織、体制なのか。NPOを立ち上げるとか、市に事務局を置くとか、商工会やJAが関係するとか、もっと具体的に描けないか。また、いわゆる「観光協会」としない理由や、観光協会との違い、目指す将来的な姿が見えない。いつまでも「連絡会」では、対外的に弱い。それこそイメージが弱い。</p> <p>7. 28ページの「戦略」の使い方が理解しづらい。一般的に目標があって、それを達成するために戦略がある。観光まちづくりの3つの課題（テーマ）解決のため、7つの目標をたて、50の戦略（アクションプラン）とするのが自然だと思うがどうか。</p> <p>8. 「プチ田舎」を標榜するならば、ドイツのクラインガルテン（週末、滞在して農業を楽しむ）の可能性も考える必要があるのではないか。それには、現在の市民農園とは異なる都心の住民を呼び込む農園運営といった新たな事業の立ち上げをどこかのプランで検討してほしい。プラン25だけでは不十分。</p> <p>9. 50のプランそれぞれの記述には、なにを行うかはあるが、具体的に「だれが、いつ、どのように」行うかの記述がない。42ページには、本プラン策定後、短期、中期、長期に分けて考えるとあるが、短期の3年間の実施計画や実行計画（アクションプラン）をつくる必要があるのではないか。進捗状況はどのように管理するのか。いつ、だれが、どのように行ったかわからない毎年の実績を単に取りまとめるだけでは意味がない。それぞれの50のプランの進捗は、それぞれ50のプランの実施計画がなければならないと思う。</p> <p>10. 43ページ以降の推進スケジュールは表なので、凡例を入れた方がわかりやすい。推進主体の● ○プランクの3つの意味がわからない。</p> <p>11. このスケジュールで短期で終わってしまうものがあるのは、どう理解すればよいのか。</p> <p>12. このスケジュールで10年間検討で終わってしまうものは、どう理解すればよいのか。</p> <p>13. JA東京むさし小平支店が建て替えを計画していると聞くと聞くと、その際、直売所をどのように作るかによっては、小平の観光の目玉となるのではないか。この動きを含め、民間の動きをどのようにプランに反映させるのか。</p> <p>14. 32ページの目標とプラン16に「フィルムコミッション」という言葉を入れるべき。そして、具体的に市が窓口になるのか、観光協会がなるのか、目標を明確にしてほしい。</p> <p>15. 市内には神明宮の八雲祭（前夜祭は万灯行進）、2年に1回の熊野宮の御輿渡御、上鈴木の御輿、鈴木稻荷の御輿、大沼の子ども御輿など、伝統行事で、観光資源がある。また、夏の盆踊りも人気があるらしく、愛好家が盆踊り情報を欲しているとのこと。プラン43の内容では不十分。維持ももちろん大事だが、これでは観光振興につながらない。</p> <p>以上</p>	<p>2-1については、ご意見のとおり本プランを策定することにより市や市民にとって様々なメリットが生まれる可能性があると思え、2ページに、一般的に言われている効果をコンパクトにまとめたものです。</p> <p>2-2、3については、既定の計画等につきましては、すべてを列挙しておりませんが多くの計画との整合について、柔軟な対応が必要と考えております。</p> <p>4については、小平市の地勢に「武蔵野台地」「平坦な地形」の文言を加筆いたします。</p> <p>5-1については、地域資源につきましては、代表的なものの一部を挙げさせていただきました。他にも地域資源があるということは承知しております。</p> <p>5-2については、不足だけでなく、その手法に課題のあるものもあることから「不足」とタイトルには掲げなかったものです。</p> <p>6について、観光まちづくり連絡会は、既存のNPOや団体の横のつながりを強化するプラットフォーム的なもので、観光まちづくりに取り組む市民や団体の交流が増え、お互いに情報を交換し合う場の設定が必要だと考えております。その中で今後の推進体制のあり方などを検討いたします。</p> <p>7について、本プランでは、市の目指す「訪れたい、住み続けたい」の観光まちづくりを進めるための方策として3つの戦略を掲げ、その下に、個別の目標を持たせる形をとったものです。</p> <p>8について、プラン25は情報発信の充実に焦点をおいたものです。クラインガルテンなどの新たな観光農園経営の可能性については、農業振興施策のなかで検討してまいります。</p> <p>9について、進捗状況につきましては観光まちづくり連絡会で報告、管理を行います。</p> <p>10について、推進スケジュールには凡例と各記号の説明を加筆いたします。</p> <p>11. 12について、スケジュール上、短期もしくは中期で実施期間が終了するものにつきましては、その期間で結果を出すことを表しております。10年間すべて検討期間となっているものにつきましては、十分な検討が必要と認識している事業になります。</p> <p>13について、本プラン検討委員会にもJA東京むさしから委員を迎えています。また、観光まちづくり連絡会によって、民間の動きなどの情報が集約できるものと考えております。</p> <p>14について、アクションプラン「16. 映画撮影やアニメ舞台の誘致」につきましてはフィルムコミッションを含め、さまざまなジャンルや媒体の活用を想定しております。</p> <p>15について、地域の伝統行事の外部化（観光化）は、観光の観点からは非常に魅力的です。観光まちづくりとしては、現在の住環境を生かした取り組みを目指しておりますので、キャンパティの問題も含めて慎重な検討が必要で、持続可能性という視点を優先して考えるべきと考えます。</p> <p>その他につきましては参考にいたします。</p>	<p>一部反映</p>
--	---	-------------

10	<p>総体的意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本プラン策定の目的は文に明確に述べられるほうがよい。住みやすい町と多くの人々が訪れる魅力ある町とは完全に一致するものではない。 ・流行（はやり）のことば（「おもてなし」）が先走り、内容を薄いものになっているのではないか。他に「プチ田舎」 <p>方策が全体的に総花的であり、先が見えるような魅力的な具体的内容が乏しいので、一步進める内容があった方がよい。</p> <p>個々気づいた点について</p> <p>P.4「振興プランの位置づけ」…「おもてなしの心を広げ」が最初に出るが、アンケート結果からも重要度は示されていない。P27「推進体制づくり」でこの精神は述べられること。市の特色として位置づけていたこと（市民はそれとはなく知っているが）が余りに知られていないことを述べ、課題と位置づけること必要（丸ポストなど）</p> <p>P.21「まちの弱み」…「おもてなしの意識低い」…根拠がないのではないか。人材不足も不明。少なくとも第一に挙げる問題ではない。</p> <p>P.25 2基本方針…「安心」…に「安全、美しい」を加え、町づくりの方向を出す必要がある。そのための方策を後に加筆したい。</p> <p>「都心から一番近いプチ田舎」…一番近いは不適切、練馬、杉並、西東京などもあること。「プチ田舎」とは何か不明。くだいて「農地や林地が残る」などが適切。又は「武蔵野の里山に連続する自然歴史文化遺産を残す町」など。</p> <p>P.26「地域中心の観光町づくり」…「まちの魅力に気付くことが出発点」、「観光まちづくりと人づくり」の中の文言の整合性を図る。</p> <p>P.28アクションプラン…戦略1「おもてなし体制づくり」は前述のとおり。第一の戦略とすべきか疑問。ことばのつかいかたも前述の通り。</p> <p>P.35プラン26「農地の保全」…内容として「小平で生産する野菜を特色とする学校給食を進める」などの方策はいかがか。</p> <p>プラン27「調べる学習による…」…何故「調べる…」とつけるか不明。</p> <p>プラン35…むずかしいし疑問。</p> <p>プラン42…具体例 うどんフォーラム、コンテストなどを入れたらどうか。</p> <p>P.40 目標…小平を特色づける産物・生産品を生み出す具体例を挙げたら。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民と生産者が協力してつくる無農薬農作物、有機物野菜（落葉集めなど） ・有機物のナノ化によるエネルギー産業の創出などはどうか。 <p>全体の構成なども深く考え、市民が先ず夢やおどろきを感じるものにしたいものです。</p>	<p>①策定の目的につきましては、素案2ページに記載されております、地域の活性化です。</p> <p>②「おもてなし」につきましては、アンケートからも地域の情報発信や案内標識の充実、休憩できる場所の整備等、受入態勢の充実についてのご意見をいただいております。また、「おもてなし」という言葉につきましては、平成24年9月19日に開催された第2回小平市観光まちづくり振興プラン検討委員会の場で提案されたものです。</p> <p>③プランの検討会において、観光まちづくりを進めるにあたって、本市は、観光地として発展しているまちと違い、市の魅力を外に伝えたり、ほかの地域から人を受け入れるという態勢が整っていないという問題提起がありました。そこで、まず、市の魅力に市民が気づくことから始めることを第一に掲げたものです。</p> <p>④「プチ田舎」というキャッチフレーズについては、ご提案にあるような表現も含め、ひとことで小平のイメージをつかんでもらうために、検討会で議論を重ねながら提案されたものです。</p> <p>⑤調べ学習につきましては注釈を入れます。個別の方策につきましては、ご提案の内容も踏まえながら、アクションプランの具体化の際にさらに検討してまいります。</p>	一部反映
11	<p>玉川上水・緑の多さこそ観光資源。その点、住民投票も行われた道路を通して雑木林をなくし、玉川上水を分断することは自殺行為である。小平にこれ以上太い道路は必要ない。もっと緑化に励むべし。玉川上水に親水できる場所をもっとつくる。</p> <p>グリーンロードに「歩く道の駅」を作り、地域で作った野菜などを集積して販売する。自動車は入ってこないのが良い。お金があったら個人的にやりたいと思っている。</p> <p>農業も観光化できる。農地を減らしベットタウン化した地域に未来はない。地域の自律を保つため、農業とバランスを保たねばならない。</p> <p>とにかくこれ以上道路で地域をずたずたにしてはただ通り過ぎるだけの小平市になってしまうであろう。</p>	<p>①本プランにおいても「緑」は地域資源のひとつとして位置づけております。</p> <p>②歩く道の駅については、アクションプラン「8.観光案内所の設置」「47.特産品を購入できる施設づくり」などの中で検討いたします。農業の観光化についてもアクションプラン「23.地産地消の推進及び情報発信」「24.魅力ある直売所の情報発信強化」「25.観光農園情報の充実」「26.農地の保全」などで取り上げています。</p>	反映済み